

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築史	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	吉川 友司(建築設計事務所にて、戸建住宅・集合住宅・店舗・展示会等の設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築の歴史を学ぶという事は、先人たちが行ってきた建築的な試行錯誤の跡の確認であり、現在あるいは未来という時代に必要とされている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えである。この科目では建築史の基礎を学ぶとともに建築史への興味を抱かせること。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 日本建築史	ガイダンス・授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回		1:竪穴式住居と高床式建物(三内丸山遺跡)／2:古代の神社建築(伊勢神宮/出雲大社)
第3回		3:仏教建築の伝来(法隆寺金堂)／4:古代の都市計画と住宅(平安京、平城京)
第4回		5:浄土教の建築(平等院鳳凰堂)／6:中世の仏教建築(浄土寺浄土堂)
第5回	2. 日本近代建築史	7:中世の神社建築(厳島)／8:中世の住宅から書院造へ
第6回		9:城郭建築(姫路城)／10:茶室と数寄屋(桂離宮)
第7回		11:近世の寺社建築(善光寺、日光東照宮、栄螺堂)／12:民家
第8回		1:西洋文化の移入(グラバー邸/富岡製糸場)／2:日本人建築家の誕生(東京駅/日本銀行)
第9回	3. 西洋建築史	3:洋式建築の展開と新しい様式の模索／4:都市計画および構造技術の発達
第10回		5:モダニズム建築の到来／6:戦後復興から高度成長期にかけて(広島平和記念館)
第11回		7:戦後の住宅政策とDK住宅の誕生／8:日本建築界からの発信
第12回		9:モダニズムの先を求めて(つくばセンタービル/京都駅ビル/せんだいメディアテーク)
第13回	4. 西洋近代建築史	1:エジプト建築(ギザのピラミッド)／2:オリエント建築
第14回		3:ギリシア建築(パルテノン神殿)／4:ローマ建築(パンテオン、コロッセウム)
第15回		5:初期キリスト教建築／6:ビザンティン建築
第16回		7:イスラム建築／8:ロマネスク建築
第17回		9:ゴシック建築／10:中世の世俗建築
第18回		11:ルネサンス建築／12:バロック建築／13:リヴァイヴァル建築
第19回		1:新材料を用いた構築物(1851ロンドン万博/1889パリ万博)／2:都市問題・住宅問題
第20回		3:アーツ・アンド・クラフツ運動(マッキントッシュ)
第21回		4:アール・ヌーヴォ(オルタ、ギマール、ガウディ、モンタネル)
第22回		5:アメリカ建築の近代化(シカゴ高層建築)／6:セセッション(ヴァーグナー)
第23回		7:鉄筋コンクリート造建築の登場／8:ドイツ工作連盟(AEGタービン工場)
第24回		9:近代建築運動(シュレーダー邸)
第25回		10:モダニズム建築の完成と流布(グロピウス、ミース、コルビュジェ、ライト)
第26回		11:アール・デコとスカイスクレイパー(クライスラー/エンパイアステートビル)
第27回		12:第二次世界大戦後の建築(シドニー・オペラハウス)
第28回		13:ポストモダニズム建築(ポンピドー・センター/香港上海銀行)
第29回		14:ポストモダニズム建築(ゲリー自邸/母の家)
第30回		
第31回		
第32回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画 I	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・1年(前期)	講義区分	専門理論
教員紹介	加畑 誠一（建築設計事務所で、住宅、事務所、工場等の設計・監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	独立住宅の基本計画ができるようにする。建築計画の基礎知識を修得し、グリッドプランニングの手法を身に付ける。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説
第2回	建築家とは	職業としての建築家
第3回	物品の寸法	身近な家具と自動車の寸法
第4回		樹木に関する基礎知識
第5回	計画一般	計画の進め方
第6回		動線計画、動線分離の原則
第7回	グリッドプランニング	グリッドプランニングの手法
第8回		グリッドを用いた平面計画1
第9回		グリッドを用いた平面計画2
第10回		グリッドを用いた平面計画3
第11回	各部計画	人体寸法、行動空間、4つの姿勢と各部の高さ
第12回		各室の必要床面積(面積原単位)
第13回		住宅の歩行空間の寸法
第14回		住宅の平面の型
第15回		階段の種類と法規制
第16回		階段の種類と法規制
第17回		開口部(窓)(出入口)
第18回	まとめ	授業のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築一般構造	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・1年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	丹野 亜紀(エネルギー事業会社で、地域開発業務、戸建て・集合住宅等の企画・設計監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	建築構造全般、木構造、鉄筋コンクリート構造を中心に、建築物の骨組みや仕上げの構成を理解して、基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドや動画などの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ・目標・スケジュール
第2回	建築工法の概要	構法の変遷、構造の分類①
第3回		構法の変遷、構造の分類②
第4回	木質構法	木質構法の種類
第5回		木材(建築用木材)①
第6回		木材(建築用木材)②
第7回		木材(木質材料)
第8回		基礎、地盤調査、地業
第9回		軸組工法①
第10回		軸組工法②
第11回		軸組工法③
第12回		軸組工法④
第13回		軸組工法⑤
第14回		軸組工法⑥
第15回		軸組工法⑦
第16回		軸組工法⑧
第17回		その他構法
第18回		枠組壁工法、大断面集成材工法
第19回	鉄筋コンクリート構造	構造形式と構造の原理
第20回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)①
第21回		コンクリート(セメント、骨材、混和材)②
第22回		コンクリート(調合)①
第23回		コンクリート(調合)②
第24回		鉄筋(種類と強度)①
第25回		鉄筋(種類と強度)②
第26回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)①
第27回		鉄筋(加工と継手、かぶり厚さ、定着)②
第28回		ラーメン構造①
第29回		ラーメン構造②
第30回		ラーメン構造③
第31回		ラーメン構造④
第32回		ラーメン構造⑤
第33回		ラーメン構造⑥
第34回		その他RC構造
第35回	その他RC構造	壁式構造、プレキャスト構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
第36回	鉄筋コンクリート造まとめ	演習、まとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築法規	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（72時間）	開講・履修期	2026年度・1年（通年）	講義区分	専門理論
教員紹介	国府田 大輔（建築設計事務所で、住宅、教育施設、既存建築物の増改築など設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築・インテリアを構成する一つの要素でもある法規は、現実社会との接点である。建築法規を、身近な存在として親しみを持ち、理解を深めることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式で、テキストを使用して基本概要、また法令集からその読み取り方を合わせて説明する。最後に、法令集を使用した例題及び演習問題を実施する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	法令集のつくり方（インデックスの貼り方、アンダーラインの引き方）
第2回		
第3回	用語の定義	建築物、特殊建築物、居室、主要構造部、構造耐力上主要な部分、
第4回		建築・大規模な修繕・模様替、延焼のおそれのある部分、耐火・準耐火建築物
第5回	面積・高さの算定	敷地面積、建築面積、床面積、延べ面積、高さ、階数
第6回		
第7回	敷地と道路	道路の定義、接道義務、道路内の建築制限、壁面線の指定
第8回		
第9回	用途地域	用途地域の建築制限
第10回		
第11回	建蔽率	建蔽率の定義と算定方法
第12回		
第13回	容積率	容積率の定義と算定方法
第14回		
第15回		
第16回		
第17回		
第18回		
第19回		
第20回	採光	採光有効面積
第21回		
第22回		
第23回	換気・シックハウス	換気、換気設備、シックハウス対策
第24回		
第25回		
第26回	天井高・階段	天井の高さ、床の高さ、階段、便所
第27回		
第28回		
第29回	耐火・防火	耐火建築物等としなければならない特殊建築物
第30回		
第31回		
第32回	防火・準防火地域	防火地域・準防火地域
第33回		
第34回		
第35回		
第36回		

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築講座(構造)	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・1年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	瀧波 龍太郎（建築設計事務所で、住宅、事務所、等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、「構造」に関する知識が大切であることを認識してもらう。そして、「構造」の基礎となっているのが「構造力学」であることを理解して、構造力学の基礎的な知識を習得してもらう。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	初回ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、「建築構造設計」を学ぶにあたって
第2回		
第3回	構造物に働く力	いろいろな建築物、建築物に働く力、力学的に見た建築物
第4回		
第5回	力の基本	力の3要素、力の図示、力の単位、力の符号
第6回		
第7回	反力1	各支点に生じる反力の種類、反力の求め方
第8回		
第9回	反力2	静定構造物(単純梁について)
第10回		
第11回	反力3	静定構造物(ラーメンフレームについて)
第12回		
第13回	構造物に生じる力	力の種類、力の求め方と表し方
第14回		
第15回	応力解析1	静定構造物(単純梁について)①
第16回		
第17回	応力解析2	静定構造物(単純梁について)②
第18回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・後期21週 年間計21週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築講座（計画）	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位（36時間）	開講・履修期	2025年度・1年（通年）	講義区分	専門理論
教員紹介	木村 鉄哉（建築設計事務所で、主に公共建築や大規模建築の設計監理業務で培った経験を活かす授業を行う。）				
授業の到達目標	独立住宅の基本計画ができるようにする。建築計画の基礎知識を修得し、グリッドプランニングの手法を身に付ける。標準的な2階建て住宅が計画できるようにする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績のみならず小テスト及び出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業内容の解説
第2回	独立住宅	配置計画、外構計画
第3回		平面計画とゾーニング
第4回		動線計画
第5回		各室の計画：玄関
第6回		各室の計画：ホール、廊下
第7回		各室の計画：居間
第8回		各室の計画：食事室
第9回		各室の計画：台所
第10回		各室の計画：便所
第11回		各室の計画：洗面脱衣所
第12回		各室の計画：浴室
第13回		各室の計画：家事室
第14回		各室の計画：主寝室
第15回		各室の計画：子供室
第16回		各室の計画：和室
第17回		各室の計画：その他の室
第18回		独立住宅のまとめ

※・1単位時間45分（90分授業）・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	広域建築実務Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	仲本 国照(建築士事務所での施工図・仮設計画図・BIM作図および現場常駐等の実務経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	SketchUpの基本操作を中心に学ぶ。建築課題や作品のプレゼンボードを製作するにあたりプレゼンテーションソフトの利用は必須である。各種ソフトウェアの基本操作をしっかりと習得することを目的とするほか、それらのソフトを連携させることで、作品表現の幅をより広げることを目標とする。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、画像や文字を編集・作成する過程で各種の基本操作や表現方法を学ぶ。また、課題の提出を適宜行うことにより各自のスキルアップを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などの説明 SketchUp【SU】のインストール
～第22回	【SU】	SketchUp【SU】の概要 画面構成・基本操作、画面調整 ファイル操作、画面表示の操作 図形の選択・解除、範囲指定による図形の選択 図形の削除、色や素材のペイント 線や背景の表現の変更、グループでの操作 シーンの保存・呼び出し、影の表示 パース・立面図・アイソメなどの表示 ファイルの入力・出力
～第32回		SketchUp【SU】での描画・編集 線の描画、面の作成、線や面の分割・結合 立体作成(ブッシュプル、フォローミー) 移動・移動コピー、回転・回転コピー オフセット・尺度変更、外側シェルツール メジャー・ガイドの使用
～第36回	【AC】+【SU】	AutoCAD【AC】+SketchUp【SU】でのCAD図面の活用 家具の図面作成とモデリング 各種形状の箱の作図、モデリング 小さな小屋の作図、モデリング、図面作成 小さな小屋のパース作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週 前期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図 I	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(144時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	河村 春美（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	各種構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。木造用教材、鉄筋コンクリート用教材を使用し、各種構造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に課題を完成させることを最優先にしている。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法、線の練習
第2回	木造製図～	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回～	木造図面1～	配置図講義① 配置図講義②＋作図演習①
～第8回		配置図作図演習②
第9回～	木造図面2～	1階平面図講義① 1階平面図講義②＋作図演習①
～第14回		1階平面図作図演習②
第15回～		1階平面図作図演習③
～第18回		2階平面図講義①＋作図演習①
第19回～		2階平面図作図演習②
～第23回		2階平面図作図演習③
第24回～	木造図面3～	断面図/立面図講義① 断面図/立面図講義②＋作図演習①
～第29回		断面図/立面図作図演習②
第30回～	木造図面4～	断面図/立面図作図演習③ 矩計図講義① 矩計図講義②＋作図演習①
～第38回		矩計図作図演習②
第39回	鉄筋コンクリート造製図	矩計図作図演習③
第40回～	鉄筋コンクリート造図面1～	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点 配置図兼1階平面図講義① 配置図兼1階平面図講義②＋作図演習①
～第46回		配置図兼1階平面図作図演習②
第47回～	鉄筋コンクリート造図面2～	2階平面図講義① 2階平面図講義②＋作図演習①
～第53回		2階平面図作図演習②
第54回～	鉄筋コンクリート造図面3～	断面図、立面図講義① 断面図、立面図講義②＋作図演習①
～第63回		断面図、立面図作図演習②
第64回～	鉄筋コンクリート造図面4～	矩計図講義① 矩計図講義②＋作図演習①
～第72回		矩計図作図演習②

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅰ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	6単位(180時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	加瀬谷章紀(建築設計事務所で、福祉施設、宿泊・研修施設、集合・戸建住宅、等の設計監理に従事した経験を活かし授業を行う。) 田中 宏明(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「建築設計Ⅰ」では、基礎を確立し設計の原点である、“自分で考え”“物を造り出す”方法を身に付けることを目的とする。具体的には、線の引き方から透視図の原理、模型の製作方法、図面の読み方・描き方、そしてゼロから現実の敷地に自分のコンセプトを基に建築物として完成させ、プレゼンテーションまでが出来ることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出席率、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～	1. 初回ガイダンス	・授業の位置付け、評価方法、「建築設計」を学ぶにあたって
第7回～	2. 木造略断面図	・木造略断面図を描く事により、三角スケール・勾配定規などの 道具の使い方をマスターする
第11回～	3. 模型の作り方	・スタディ模型を基に第三者(施主)に対してプレゼンテーションが出来る美しい 模型を作る
第13回～	4. プレゼン用住宅模型	・スチレンボードによる、基本的なプレゼン用住宅模型の作成 ・模型作成テクニックや道具の紹介(インテリア、外構計画等)
第17回～	内観パースを描く	・簡単な内観パースを描くための一点透視図法を学び、実際に各自が自由に インテリアを考えながら作図を行う
第21回～	5. マンションの設計 及びインテリア	・躯体のみを与えられ、その内部に住宅の設計を行う ・主要な室、水廻り空間、外部空間の設計:機能と必要寸法の学習 ・家具の寸法と配置について 図面表現、パースの作成について
第29回～	6. 都市の住処 ～住宅+α新しい暮らし方	・要項説明、敷地調査 ・与えられた敷地と条件での理想的な小住宅の設計 ・コンセプトを簡単明瞭に作り、具体的なカタチへ ・エスキスは平面、断面、立面も同時に進める ・誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・模型撮影とライティング・レイアウト・スケジュール管理
第45回～ 第48回		・クラス講評会 ・合同講評会:プレゼン能力の向上、他人の作品研究、モチベーションの維持 などを目的とし、課題の区切り・まとめとして行なう
第49回～ 第51回～	7. 進級制作 「集合住宅	・要項説明、敷地設定の検討 ・コンセプト:要求や条件からテーマやイメージを決める ・ダイアグラム:計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する
第57回～	―都市と自然を感じる暮らし― の設計	・エスキス①:機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②:ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 :スタディ模型による立体的な観点からの検討
第67回～		・プランニング①:徐々に抽象的なコンセプトを具体的なカタチにしてゆく ・プランニング②:エスキス検討を繰り返しつつ、各図面のスケッチを描く ・プランニング③:配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング④:必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する
第75回～		・パース・模型①:計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・パース・模型②:スケッチ、パース、模型等による表現 ・プレゼンテーション:誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習
第86回 第87回		・クラス講評会:他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会:プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ 向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第88回～ 第90回	8. 総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築CAD演習 I	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(108時間)	開講・履修期	2026年度:1年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	佐々木 由美子（設計事務所における厨房機器等の設計業務で培った経験を活かす授業を行う）				
授業の到達目標	AutoCADをメインとして、CADの概念からその基本的な操作方法を学ぶ。そして、建築におけるCADや3Dモデルといったデジタルならではの表現を学習し、その作成したデータを素材としてプレゼンテーションを完成させることを目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を基本とし、図面を作成する過程で各種のコマンド操作やCAD図面の作図方法、印刷方法を学ぶ。また、小テストを実施して各自のスキルアップを確認できるようにする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 初回ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などを説明
第2回	2. インストール	CADのインストールとユーザー登録についての説明
第3回～第8回	3. CADの基本操作演習1	CADの特徴と基本的な設定、重要コマンドの概略を説明 各レイヤーや線種等の設定を踏まえた作図を習得する 図形の描画方法を学ぶ。直線、円、円弧、削除と取消を習得する
第9回～第12回	4. CADの基本操作演習2	図形の修正方法を学ぶ。選択方法、移動、複写や隅部の処理方法を習得する
第13回～第32回	5. 実施図面の作成	平面図作図演習①(RC造住宅) 断面図作図演習②(RC造住宅) 立面図作図演習③(RC造住宅)
第34回～第36回	6. CADの応用操作演習3	画層(レイヤー)の管理と操作方法を学ぶ。画層の概念について解説し、管理方法 画層の使いこなし方とそれによる効率のよい図面の描き方を習得する 図形以外のオブジェクトとして、文字及び寸法線の入力方法を習得する 尺度、印刷スタイルやレイアウト空間といったCADの特性を把握し、正確に出力する方法を学ぶ。
第38回～第54回	7. 既存図面の作成	竣工図の読み取りを学びながら、既存図面を作成する。 平面図作図演習①(RC造事務所ビル) 平面図作図演習②(RC造事務所ビル) 断面図作図演習①(RC造事務所ビル) 断面図作図演習②(RC造事務所ビル)

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

製図専門課程（工業）

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の目標・教科書・スケジュール・評価方法などの説明
第2回		Photoshop【PS】 および Illustrator【AI】のインストール
	【PS】	Photoshop【PS】の概要 レイヤーについて Photoshopの基本ツールの練習 画像の調整 画像の切り抜き 画像の色調変更 模型写真への合成
～第20回		
	【AI】	Illustrator【AI】の概要 レイヤーについて Illustratorの基本ツールの練習 ガイドの作成と画像の配置・整列 クリッピングマスクと透明マスク
～第28回		
	【PS】+【AI】	Photoshop【PS】 & Illustrator【AI】基礎ワーク プレゼンボードの作成 レイアウトの練習
～第34回		
	【AC】+【SU】+【PS】+【AI】	AutoCAD【AC】+SketchUp【SU】+Photoshop【PS】+Illustrator【AI】の応用 住宅作成 建築図面・モデル入力 図面の加工
～第46回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築計画Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	大久保良太（建築設計事務所で住宅・オフィス・ホテル・駅等の設計管理とコンペの経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	各用途別に建築計画の基礎知識を修得する。 建築計画の流れや、企画から基本計画、基本設計を行うために必要な、計画上の基礎知識の修得を目標とする。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も適宜取り入れる。また、テキストだけでは分かりにくい部分は、スライドやDVDなどの教材を利用し学生の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回 第2回	ガイダンス 集合住宅	授業内容の解説 定義、階数で分類、断面形式 アクセス形式で分類 共用廊下、共用階段の計画 エレベーター(昇降機)の計画 エントランス、駐車場の計画
～第9回 第10回	図書館	住戸内部の計画 定義、種類 機能、出納システム 配置計画
～第16回 第17回	美術館	平面計画(開架閲覧室～BM車庫)、断面計画 定義、種類、配置計画 6つの機能、平面構成 展示部門の計画:展示機能、展示形式、動線計画 巡回形式、展示部門以外の平面計画 断面計画、採光計画(自然採光方式) 平面計画の演習1 平面計画の演習2
～第24回 第25回	小学校	前期建築計画のまとめ 歴史、種類、通学区域 学級運営の方式 配置計画 ブロックプラン 平面計画、断面計画
～第30回 第31回	オフィスビル	各室の計画 歴史、定義、種類 敷地の条件と配置計画 空間構成 レントابل比 賃貸形式、規模計画 コアシステム 平面計画 断面計画 エレベーターの計画
～第36回		これからのオフィスビル1 これからのオフィスビル2 建築計画のまとめ

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設備	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	本間 修市（空調設備会社、建築設備事務所で施工管理、設計業務に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築設備(給排水衛生設備・空気調和設備・電気設備)の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築設備概論	建築設備とは、建築設備の役割について解説。 建築設備の種類と構成、および建築計画と設備計画の解説。 地球環境問題と建築設備、省エネルギー、維持管理などの解説
～第3回		
第4回	給排水衛生設備	給排水衛生設備の役割と目的および構成について解説。 水の種類、化学的特性、物理的特性について解説。 給水設備の目的、水道施設と水道の種類について解説。 水道水の水質基準の紹介、給水方式の解説。自宅の給水量を9日間実測し考察。 使用水量と給水器具の必要水圧、受水槽・高置水槽の構造について解説。 給水管の管径計算、揚水ポンプ能力の算出計算の実習。
	給水設備	給湯設備の目的、給湯温度と使用温度について解説。 給湯方式および給湯配管注意事項について解説。
	給湯設備	排水通気設備の目的、排水の種類と排水方式について解説。 トラップ、通気管種類、排水管名称について解説。 排水槽の構造、間接排水について解説。 雨水排水管の口径計算について実習。
	排水通気設備	衛生器具設備の概要、洋風大便器、洗面器ほかの種類について解説。 衛生器具の設置計画、必要個数について解説。
	衛生器具設備	燃焼の3要素、消火の方法および消火設備の基本事項について解説。 消火器、消火栓、スプリンクラー、連結送水管、連結散水設備について解説。
～第18回	消火設備	換気設備の目的および第1種から第3種換気方式を解説。 換気量算定の手法を解説し、換気量を計算。
第19回	換気設備	空気調和設備の目的と構成について解説。 室内環境基準7項目の内容、温熱感覚を解説。 空気線図の読み取り方を解説し、加湿量の算定を実習。 顕熱と潜熱の違いから顕熱変化、潜熱変化を解説。 空調負荷計算の概要を解説。 空調方式の種類と特徴を解説。 冷房暖房時の空気線図上の動きを解説。 中央式空気調和機のシステム全体の解説。 空調機器(熱源装置、熱搬送機器、空調機、熱交換器など)種類・特徴を解説。 ダクトのサイズ算定方法の概要を解説
～第21回		
第22回	空気調和設備	電気設備の役割、構成、関連法規の解説。 電気の基礎知識。周波数、電流、電圧、電力の解説。 受変電設備の解説。受電・配電方式の解説等。 幹線設備の解説。遮断器の種類、幹線の配線方式、配線方法の注意点など。 照明用語の解説。照明器具の種類と特徴の解説。照明方式の紹介。 光束法による照度計算。建築化照明の種類と特徴の解説。 避雷保護設備・航空障害灯設備などについて解説。
～第31回		
第32回	電気設備	
～第36回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築材料	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(36時間)	開講・履修期	2026年度・2年(後期)	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築を学ぶ上において、建築材料は基礎となる。建物に使用される各種材料の製造方法や、基本的な性質を理解し、建築物への用い方や工法上の注意事項などを学習する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を利用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業概要及び成績評価 / 建築材料の基礎
第2回	建築材料の概要(1)	建築材料の歴史 / 建築材料の規格 / 建築材料の分類と性能
第3回	防水材(1)	防水材の種類 / アスファルトの歴史 / アスファルト防水材の種類
第4回	防水材(2)	アスファルト防水について
第5回	石・タイル材	石材の種類 / 各石張り工法 / タイル材の種類 / タイルの施工方法
第6回	金属部材	金属の種類 / 軽量鉄骨材について
第7回	左官材	左官材の歴史 / 左官材の種類 / 左官工法について
第8回	塗装材	塗装材の種類 / 塗装方法について
第9回	内装材	床材 / 壁・天井材
第10回	組積材	ALC材 / 押出成形セメント / コンクリートブロック材
第11回	ガラス(1)	ガラス材の歴史 / 板ガラスの種類
第12回	ガラス(2)	ガラスの加工方法
第13回	木材(1)	木材の種類 / 木材の組織 / 含水率
第14回	木材(2)	その他性質 / 木質材
第15回	材料実験(1)	鉄筋コンクリート造の基礎学習
第16回	材料実験(2)	圧縮・引張試験について
第17回	材料実験(3)	レポートまとめ
第18回	材料実験(4)	総評

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築施工	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位（72時間）	開講・履修期	2026年度・2年（通年）	講義区分	専門理論
教員紹介	伊東 秀紀（総合建設業で商業施設の新築・改修の施工管理業に従事した経験を活かし授業を行う。）				
授業の到達目標	建築施工に関わる基礎を習得する。 建築施工の流れや、契約から鉄筋コンクリートの躯体ができるまでを中心に、施工方法等の基礎的な知識を習得する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、実務的な実技・演習の時間も適宜取り入れる。また、スライドやDVD、材料サンプルなどの教材を使用し、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業概要及び成績評価 / 建築生産(施工)とは / 建築生産(施工)の歴史
第2回	契約(1)	工事関係者 / 監理と管理 / 施工者の選定方法 / 契約の種類
第3回	契約(2)	工事請負契約 / 工事請負契約約款 / 建設業法 / 監理業務委託契約
	施工計画	施工計画書の作成 / バーチャート工程表
	管理計画	材料管理の方法 / 申請・届出の種類と業務内容 / 安全管理
～第6回	事前準備工事	地盤調査の種類 / 標準貫入試験とは / その他調査方法
第7回	仮設工事(1)	仮設工事の種類 / 共通仮設 / 直接仮設
第8回	仮設工事(2)	足場の種類 / 単管足場 / 枠組足場
第9回	土工事	土工事の流れ / 根切工事 / 排水工法の種類 / 床付け・埋戻し・締固め
第10回	山留工事	山留工法の種類 / 山留壁の種類 / 水平切梁工法
第11回	地業工事	既製コンクリート杭(セメントミルク工法)について / 場所打ちコンクリート杭について
	工程表(1)	ネットワーク工程表の計算方法①
～第13回	工程表(2)	ネットワーク工程表の計算方法②
第14回	試験対策講義(1)	試験対策問題①
第15回	試験対策講義(2)	試験対策問題②
第16回		
第17回	その他工事(1)	測量 / 積算
第18回	その他工事(2)	施工機械・器具
第19回	躯体工事	鉄筋コンクリート造について / 計画供用期間とは
	鉄筋工事(1)	鉄筋材の種類 / 各部名称 / 加工・組立方法
～第21回	鉄筋工事(2)	あきの計算 / 継手の種類 / 重ね継手とは
第22回	鉄筋工事(3)	定着について / 鉄筋のかぶり厚さ / ガス圧接継手
	型枠工事(1)	型枠材の種類 / 各部名称 / 緊結材
	型枠工事(2)	せき板の存置期間 / 支保工の存置期間
～第25回	コンクリート工事(1)	コンクリートの構成 / セメントの種類 / 骨材 / コンクリートの性質
第26回	コンクリート工事(2)	コンクリートの調合 / レディーミクストコンクリート
	コンクリート工事(3)	コンクリートの打込み / コンクリートの運搬
	コンクリート工事(4)	各種コンクリート / コンクリートの欠陥
	コンクリート工事(5)	コンクリート工事のまとめ
	鉄骨工事(1)	鉄骨工事の流れ / 鋼材の加工方法
	鉄骨工事(2)	接合方法について / 溶接 / ボルト接合
	鉄骨工事(3)	鉄骨建方 / 各種精度検査
	仕上工事(1)	防水工事 / シーリング工事
～第35回	仕上工事(2)	張り石工事 / タイル工事 / 左官工事
第36回	仕上工事(3)	塗装工事 / 内装工事 / 木工事

※・1単位時間45分(90分授業)・すべての科目は必修科目である・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築法規Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	木村 鉄哉(建築設計事務所で、主に公共建築や大規模建築の設計監理業務で培った経験を活かす授業を行う。)				
授業の到達目標	建築法規Ⅱでは建築法規Ⅰの続編として、実務レベルに必要な範囲の建築基準法をマスターする。また建築物の実施設計等に必要な建築基準法以外の法律、例えば建築士法・住宅品質確保法等の関係法令も理解する。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とする。建築関連法令集の法文を解説し、建築士試験を意識した演習課題を行うことにより理解を深める。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 高さ制限①	絶対高さ:用途地域等により、建築物の高さが制限される事を解説
第2回	高さ制限②	道路斜線:前面道路の幅員等により、建築物の高さが制限される事を解説
第3回	高さ制限③	隣地斜線:隣地境界線からの離隔距離等による高さ制限の解説
第4回	高さ制限④	北側斜線:北側隣地境界線・北側道路からの離隔距離等による高さ制限の解説
第5回	高さ制限⑤	斜線制限の緩和:各種の斜線制限が緩和される条件を解説
第6回	高さ制限⑥	日影規制:日影による中高層建築物の高さ制限を解説
第7回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第8回	2. 避難施設等①	廊下:廊下幅員の特例について解説
第9回	避難施設等②	出入り口:客席からの出口の戸、及び屋外への出口の戸について解説
第10回	避難施設等③	避難階段:2以上の直通階段が必要な建築物の条件、及び避難階段の種類等について解説
第11回	避難施設等④	排煙設備について、その設置条件及び構造等について解説
第12回	避難施設等⑤	非常用照明・非常用進入口・非常用EVについて、その設置条件及び構造等について解説
第13回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第14回	3. 構造計算及び構造強度①	構造計算:建築設計において、構造計算が必要か不要かの判定方法を解説
第15回	構造計算及び構造強度②	木造:地震、台風に安全な木造建築物を造る為、柱の小径・必要軸組長さ等を解説
第16回	構造計算及び構造強度③	補強コンクリートブロック造:地震で倒壊しない塀の構造等を解説
第17回	構造計算及び構造強度④	鉄骨造:鉄骨造の材料・有効細長比・接合・高力ボルト等を解説
第18回	構造計算及び構造強度⑤	鉄筋コンクリート造:柱・床版・はり・耐力壁の構造等を解説
		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第19回	4. 防火規定①	防火地域・準防火地域:両地域内の建築構造・外壁・防火戸・看板等に関する建築制限を解説
第20回	防火規定②	準耐火建築物の木造3階建共同住宅:本来は耐火建築物にすべき建築物が、例外として、一定条件を満足すれば準耐火建築物で建てられる事を解説
第21回		
第22回	防火規定③	内装制限を受ける建築物:内装制限を受ける建築物の条件について解説
第23回	防火規定④	内装制限を受けた建築物の内装仕上材料等について解説
第24回	防火規定⑤	防火区画:面積区画・高層区画・縦穴区画・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第25回	防火規定⑥	防火区画:面積区画・高層区画・縦穴区画・異種用途区画の条件、及びその構造等について解説
第26回	防火規定⑦	防火壁・界壁・間仕切壁・隔壁:4種類の壁についてその適用条件を解説
第27回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第28回	5. 建築確認申請及び建築手続き①	建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第29回	建築確認申請及び建築手続き②	建築物の設計において、建築確認申請が必要か不要かの判定方法を解説
第30回	建築確認申請及び建築手続き③	中間検査・完了検査の必要な時期、及びその申請方法について解説
第31回	建築確認申請及び建築手続き④	定期報告・工事届、除却届等:各種届出の時期及び届出方法について解説
第32回	建築確認申請及び建築手続き⑤	演習問題による実習を通して、各種届出について理解
第33回		振り返り・確認テスト・・・これまでの振り返りを行い、基本的事項の再確認を行う
第34回	6. その他関連法令①	建築士法:1級・2級・木造建築士が設計監理できる建築物の条件について解説
第35回	その他関連法令②	建築士法:建築士の業務・事務所の規定等について解説
第36回	その他関連法令③	住宅品質確保法:住宅品質確保法の用語の定義、及び新築住宅の瑕疵担保責任等について解説

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築構造力学Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(72時間)	開講・履修期	2026年度・2年(通年)	講義区分	専門理論
教員紹介	瀧波 龍太郎（建築設計事務所で、住宅、事務所、等の建築意匠の設計・監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。）				
授業の到達目標	建築物を設計するにあたって、フレーム及び部材の断面にどのように力が作用し、その時の力の大きさと強さがフレーム及び断面に与える影響、安全性について学ぶ。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるループリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	講義形式を基本とするが、演習の時間も取り入れ、テキストだけでは分かりにくい部分の理解の補助とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のループリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築構造力学Ⅰの復習1	片持梁の応力解析
第2回	建築構造力学Ⅰの復習2	単純梁の応力解析
第3回	応力解析1～	静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第4回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第5回		静定構造物(片持梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第6回	応力解析2～	静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第7回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第8回		静定構造物(片持梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第9回	応力解析3～	静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)解説
第10回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習①
第11回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習②
第12回		静定構造物(単純梁系ラーメンの集中荷重について)演習③
第13回	応力解析4～	静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)解説
第14回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習①
第15回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習②
第16回		静定構造物(単純梁系ラーメンの等分布荷重について)演習③
第17回	静定トラス1	静定トラスとは、静定トラスの各部材に生じる力
第18回	静定トラス2～	接点法による応力解析、解説と演習①
第19回		接点法による応力解析、演習②
第20回	静定トラス3～	切断法による応力解析、解説と演習①
第21回		切断法による応力解析、演習②
第22回		切断法による応力解析、演習③
第23回	断面の性質1	断面一次モーメントと図心、解説と演習
第24回	断面の性質2～	断面二次モーメント、解説と演習①
第25回		断面二次モーメント、演習②
第26回	断面の性質4	断面係数、断面二次半径、断面の主軸
第27回	構造材料の力学的性質	応力度について(垂直応力度、せん断応力度、曲げ応力度)解説
第28回	部材に生じる応力度1	圧縮力を生じる部材、長柱公式(オイラー式)、解説と演習
第29回	部材に生じる応力度2	せん断応力度、解説と演習
第30回	部材に生じる応力度3	最大せん断応力度、演習
第31回	部材に生じる応力度4	曲げ応力度、解説と演習
第32回	部材に生じる応力度5～	最大曲げ応力度、演習①
第33回		最大曲げ応力度、演習②
第34回	不静定構造物1～	たわみについて
第35回		たわみ角について
第36回		不静定ラーメンについて

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

製図専門課程（工業）

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	建築工法の概論	授業ガイダンス、構法の変遷
第2回	鉄骨構造①	その他の鉄骨構造(1)
	鉄骨構造②	構造形式の分類・特徴(2)
	鉄骨構造③	材料性質(1)
	鉄骨構造④	材料性質(2) 演習問題
	鉄骨構造⑤	接合方法・分類・特徴
	鉄骨構造⑥	機械的接合(1)
	鉄骨構造⑦	機械的接合(2)
	鉄骨構造⑧	冶金的接合(1)
	鉄骨構造⑨	冶金的接合(2)
	鉄骨構造⑩	冶金的接合(3)
	鉄骨構造⑪	骨組(1)
	鉄骨構造⑫	骨組(2)
	鉄骨構造⑬	骨組(3)
	鉄骨構造⑭	その他の鉄骨構造(1)
	鉄骨構造⑮	その他の鉄骨構造(2) 演習問題
～第18回	鉄骨構造⑯	まとめ・復習講義・演習問題

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	広域建築実務Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(46時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	有泉 太一郎(主宰する建築設計事務所で、様々な設計監理業務に従事した経験を活かした授業を行う。)				
授業の到達目標	「デジタルデザインⅡ」で学習した基本操作を補い、覚えた機能を実務に展開する。				
授業の概要及び特徴	学習形式はオンラインを主とする。「デジタルデザインⅡ」で習得した技術を自身で考えた作品に応用する。手描きのスケッチからBIMソフトへの展開、プレゼン資料の作成等のテクニックなどを習得する。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとす。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	1. 建設業界の現況	ガイダンス。こらからの授業の進め方
第2回	2. レイアウトの基本	↓ 既存データの操作方法や印刷する方法
第3回	3. デジタルツールの習得-1	↓ (オンライン教材中心) Archicad
第4回	4. デジタルツールの習得-2	↓ Archicad
第5回	5. デジタルツールの習得-3	↓ Archicad
第6回	6. デジタルツールの習得-4	↓ Archicad
第7回	7. デジタルツールの習得-5	↓ Archicad
第8回	8. デジタルツールの習得-6	↓ Archicad
第9回	9. 箱型建築-1	↓ 箱型建築の設計
第10回～ 第23回	10. 箱型建築-2	↓ 箱型建築のモデリング 平面・立面・断面・レイアウト等の編集

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野

製図専門課程（工業）

科目名	建築製図Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(72時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	小野澤 裕子(建築設計事務所で、住宅、店舗設計、マンションリフォーム業務に従事している経験を活かし授業を行う。)				
授業の到達目標	鉄骨造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。同時に図面を作成する時の決まりや記入すべき事項、さらに手書き図面の表現方法などを習得する。各種図面の読み方、図面相互関係の参照の方法、各部名称、納まり、各部詳細についても理解する。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とする。「定番 建築製図入門」を使用し、鉄骨造の基本や特徴を、実際の図面を模写することによって、より深く理解する。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回	ガイダンス	授業の位置付け、評価方法
第2回	鉄骨造	図面の名称・内容、図面の読み方、図面を描く上での注意点
第3回	鉄骨造図面1～	配置1階平面図、配置図講義＋作図演習①
第4回		配置1階平面図、配置図作図演習②
第5回		配置1階平面図、平面図講義①
第6回		配置1階平面図、平面図講義②＋作図演習①
第7回		配置1階平面図、平面図作図演習②
第8回		配置1階平面図、平面図作図演習③
第9回		配置1階平面図、平面図作図演習④
第10回		配置1階平面図、平面図作図演習⑤
第11回	鉄骨造図面2～	2階平面図、平面図講義①
第12回		2階平面図、平面図講義②＋作図演習①
第13回		2階平面図、平面図作図演習②
第14回		2階平面図、平面図作図演習③
第15回		2階平面図、平面図作図演習④
第16回		2階平面図、平面図作図演習⑤
第17回	鉄骨造図面3～	立面図、立面図講義①
第18回		立面図、立面図講義②＋作図演習①
第19回		立面図、立面図作図演習②
第20回		立面図、立面図作図演習③
第21回		立面図、立面図作図演習④
第22回		立面図、立面図作図演習⑤
第23回	鉄骨造図面4～	断面図、断面図講義①
第24回		断面図、断面図講義②＋作図演習①
第25回		断面図、断面図作図演習②
第26回		断面図、断面図作図演習③
第27回		断面図、断面図作図演習④
第28回	鉄骨造図面5～	矩計図、矩計図講義①
第29回		矩計図、矩計図講義②＋作図演習①
第30回		矩計図、矩計図作図演習②
第31回		矩計図、矩計図作図演習③
第32回		矩計図、矩計図作図演習④
第33回		矩計図、矩計図作図演習⑤
第34回		矩計図、矩計図作図演習⑥
第35回		矩計図、矩計図作図演習⑦
第36回		矩計図、矩計図作図演習⑧

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	建築設計Ⅱ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	2単位(76時間)	開講・履修期	2026年度:2年(前期)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至（建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。） 安田 智紀（実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	設計Ⅰで学んだ住宅の設計を基礎にして、美術館・図書館等の公共性が高く、比較的大規模な建物の設計に取り組む。様々なプログラムを短期間に解き、カタチに昇華させる訓練を積むことを目的とする。また、実例の詳細な調査や各種情報交換をし、スケジュール管理まで含めた実務的な仕事の手順で高いレベルでの「作品」の完成に導く。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第3回～ 第5回～ 第7回～ 第9回～ 第13回～ 第15回～ 第17回～ 第19回～ 第20回	1. 「美術館」	・要項説明、敷地調査：課題説明と要求図面などを解説 ・コンセプト：美術館における「展示・観覧」という機能だけではなく、街のコミュニティの核となる空間を考え、周辺環境や設定条件などにも配慮するように指導 ・ダイアグラム：計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①：機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②：ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 ：スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①：詳細に検討された展示空間の平・断面図、美術館に必要な共用部分の作図及び街並みなどを配慮した外構計画を中心に指導 ・プランニング②：配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング③：必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型：計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・プレゼンテーション：誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会：他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会：プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第21回～ 第23回～ 第25回～ 第27回～ 第29回～ 第31回～ 第33回～ 第35回～ 第37回～ 第38回	2. 「メディアセンター」	・要項説明、敷地調査：課題説明と要求図面などを解説 ・コンセプト：メディアセンターでは敷地のある町（都市）に対して教育・文化の活性化や経済的効果などの影響も考慮した計画となるように指導 ：講義科目の「建築計画Ⅱ」・「法規」等とリンクさせながら「公共性」という観点に立ったときに必要な機能や法規について具体的に指導 ・ダイアグラム：計画の要点や特徴を文章や図を用いて簡潔に表現する ・エスキス①：機能やデザインに基づくゾーニングや動線をまとめる ・エスキス②：ボリュームや外部施設、必要諸室、面積、構造、設備の検討 ：スタディ模型による立体的な観点からの検討 ・プランニング①：メディアセンター特有の所要室とその配置・規模などに注意するとともに、公共建築としてふさわしいデザインとその図面表現の指導 ・プランニング②：配置図・平面図・断面図等の作成と、各種検討作業を継続する ・プランニング③：必要図面表現を明確にし、実際の作図を実施する ・パース・模型：計画意図を明確に伝えるための内外イメージの具現化 ・プレゼンテーション：誰にも分かりやすく、美しいプレゼンテーションの学習 ・クラス講評会：他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・合同講評会：プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
	3. 総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要 青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）					
科目名	デジタルデザインⅡ	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	3単位(92時間)	開講・履修期	2026年度:2年(通年)	講義区分	専門実技
教員紹介	有泉 太一郎（設計事務所を主宰する一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。）				
授業の到達目標	「デジタルデザインⅡ」では、近年、建築業界で急速に普及し、注目を浴びている最新設計ツールであるBIMを、その基礎から学ぶ。具体的には、BIMの概念の理解から始まり、BIMソフト「Archicad」の基本操作、そして作成した三次元モデルから二次元の建築図面を作成する。最終的に複数のソフトを使い、デジタルプレゼンテーションまで行えることが、目標である。				
授業の概要及び特徴	学習形式はオンラインを主とする。教員が実際にパソコンを操作し、その様子を動画で学生に見せながら学ばせる。そのうえで、学生は自ら手を動かし、その操作や機能などを体で実感しながら学んでゆく。基本的なモデルを提示し、全員が同じペースで基本を学ぶが、その後徐々にそれぞれ自分のデザインをベースに作業を進め、最終的には、学生個々の習熟度に見合ったオリジナルの成果物とする。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、定期試験の成績や成果物のみならず、出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものである。また、授業時数の1/4を超える欠席科目は原則不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～	1. BIMの基本的な概念	ArchiCADの概念・BIMで何ができるのか・BIMを使った仕事の流れなどについて ↓
第4回～	2. ArchiCADの基本操作① BIMのガイドライン	ArchiCADの基本とBIMガイドラインの理解 ↓
第8回～	3. ArchiCADの基本操作② BIMの環境設定	ArchiCADの基本と環境設定 ↓
第12回～	4. ArchiCADの基本操作③ モデルの作成	ArchiCADのモデリング ↓
第16回～	5. ArchiCADの基本操作④ 立面図の作成	ArchiCADによる立面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓
第20回～	ArchiCADの基本操作⑤	ArchiCADによる断面図の作成
第24回～	6. 断面図の環境設定作成	ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓
第24回～	7. ArchiCADの基本操作⑥ 平面図の作成	ArchiCADによる平面図の作成 ArchiCADによる編集及び修正方法 ↓
第30回～	8. ArchiCADの基本操作⑦ パースの作成	ArchiCADによるパースの作成 レンダリングによる内観及び外観パースの作成方法 ↓
第34回	9. プレゼンテーション レイアウト	内観及び外観パースの調整 ↓ PowerPointでまとめる → プレゼンテーション ↓
第42回～	10. 設計課題への応用	規定用紙へのレイアウト 設計課題への応用 ↓
第46回		設計課題への応用及びプレゼンテーション資料の作成

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週

授 業 概 要

青山製図専門学校：工業分野 製図専門課程（工業）

科目名	卒業制作	開講学科	建築科	修業年限	夜間部2年制
取得単位数	4単位(146時間)	開講・履修期	2026年度:2年(後期)	講義区分	専門実技
教員紹介	宮野 人至(建築設計事務所で、公共建築、住宅、クリニック、事務所等の意匠設計及び監理業務に従事した経験を活かし授業を行う。) 安田 智紀(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。) 田中 宏明(実務経験を持つ一級建築士であり、建築実務経験者である教員が担当する科目となる。)				
授業の到達目標	「卒業制作」では、敷地の選定、企画の立案等を自分で設定し、敷地・構造・規模などを調査・選定する。法規、構造、施設用途、建物コンセプト等、現実に即したものとして仕上げることを目的とする。さまざまな実例の詳細な調査や各種情報交換をし、スケジュール管理まで含めた実務的な仕事の手順で「作品」の完成に導く。社会での疑似体験と考え、決められた期限内に満足のゆく作品を完成させる。その具体的な内容及び到達目標は、別途資料であるルーブリック表を参照のこと。				
授業の概要及び特徴	実技・演習形式を主とするが、現地調査や類似参考建物の見学など、校外授業なども適宜取り入れる。また、スライドやDVDなどの教材を利用した講義形式の授業も行う。作品は全て個人またはグループによる創作である。コンセプトを現実のカタチにまで造り上げることは、現在学んでいる多くの他の授業の統合である。これを理解し実感してもらうためには、期限内に作品を完成させることを最優先している。				
成績評価方法	担当講師及び本校関係教員が協議の上、評価する。その際には、成果物のみならず出欠席、修学態度等を加味し、総合的に判断する。その評価方法は、科目毎のルーブリック表を活用し、10点法のGPA制度に準拠したものとする。また授業時数の原則、1/4を超える欠席科目は不合格となる。				

回	授業項目	授業の計画及び内容
第1回～ 第4回 第5回～	課題及び要項説明 敷地調査 要項作成 エスキス① エスキス② エスキス③ エスキス④	・「卒業制作」の課題説明と要求図面などを解説 ・設定した敷地や周辺環境の調査を行う ・プログラム等各種設定を作成 ・多様化する社会、変化する社会のなかで建築の在り方、あるべき姿とは何かを考え、これまでに学んだ知識や技術の集大成として表現できるよう指導 ・コンセプト・敷地・構造などは自由であるが、規模やテーマはやはり、卒業制作に相応しいものとして、綿密な打ち合わせを行う
第24回	中間発表	・エスキスやスタディ模型を使って各自のコンセプトや表現したい事を発表し、完成に向けて最後の微調整を指導
第25回～ 第28回	図面・模型の作成① 図面・模型の作成② 図面・模型の作成③ 図面・模型の作成④ 図面・模型の作成⑤	・決められた期限、様々な制約のなかで作品を完成させるためには、日常生活パターンや健康管理などを含め、あらゆる面において自己コントロールが必要 ・更にはさまざまな場面で孤独な決断を強いられ、完成に向けて何を優先させ、何を捨てるのかといったアドバイスも行なう
第57回	プレゼンテーション① プレゼンテーション②	・模型写真、パース表現、コンセプトのまとめ方及び全体レイアウトなどを指導
第58回～ 第65回	クラス講評会	・他の人の考えや表現を見て、自らの計画にフィードバックする ・プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、今後の制作へ向けたモチベーションや知識、技術の向上を目指す
第66回～ 第69回	合同講評会	・最後の講評会で、プレゼンテーションや他の人の作品研究を通して、もう一度「建築」を学んだ学生として、「講評会」で発表する意義を考える
第70回～ 第71回	総括課題	・年度末 卒業・進級制作作品集へ掲載する作品データの制作 ・優秀作品講評会、発表会における会場での聴講及びそのレポート
第72回～ 第73回		

※・1単位時間45分(90分授業) ・すべての科目は必修科目である ・前期21週、後期21週 年間計42週